岸和田・本町

まちなみ景観形成ガイドブック

本町のまちづくりを考える会

本町のまちづくりの目指すところ

本町地区では、歴史的まちなみの保全と魅力あるまちづくりをめざして、平成６年に「本町のまちづくりを考える会」が発足しました。

これまでに、歴史的な建築物等の保全や修復により、まちなみの保全が図られるとともに、新築や改築時に歴史的なまちなみに調和した修景が行われ、まちなみが創造されてきました。また、まちなみにそぐわないブロック塀の改善や、手づくりの案内板の作成、清掃活動などに取り組んできました。

今後も、歴史的なまちなみを活かしたこれらの活動を継続していき、住民が誇りと愛着をもてるまちであり続けるとともに、訪れる人にも感動を与えるようなまちづくりに向けて、地区の住民が主体となって、行政や専門家と連携して取り組んでいきます。

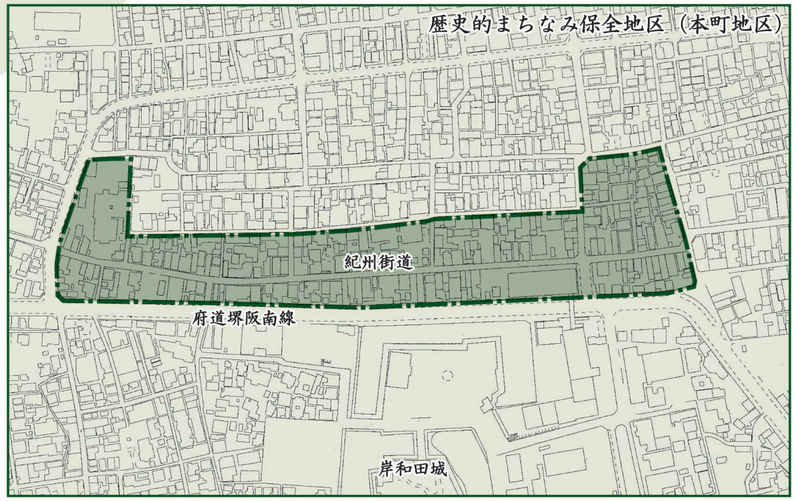
本町のまちづくりのテーマ

まもる（保全・修復）

そだてる（誘導・育成）

つくりだす（創造）

かいぜんする（改善）



まちなみ形成・板塀プロジェクト

まちなみの阻害要因となっているトタンやブロックの塀について、所有者と交渉し、壊すことなく、木の板を打ち付けて板塀風のデザインに修景しています。

施工前

完了

手づくり案内板プロジェクト

訪れる人に対して“おもてなしの心”を盛り込んだ、手づくり案内板（だんじりのコマや梃子を再利用）を設置しています。

イベント等によるまちなみのＰＲと啓発

「紀州街道にぎわい市」や「夢灯路」、ウォーキングイベントの散策者を出迎えることにより、歴史的まちなみについての情報発信と、イベント参加者や地域住民への意識啓発を行なっています。

本町のまちづくりを考える会

お問い合せは
〒596-8510　岸和田市岸城町7-1
岸和田市都市整備部都市計画課　TEL 072-423-2121(代)

平成２０年３月

このリーフレットは、(財)大阪府都市整備推進センターのまちづくり初動期活動サポート事業を活用しています。

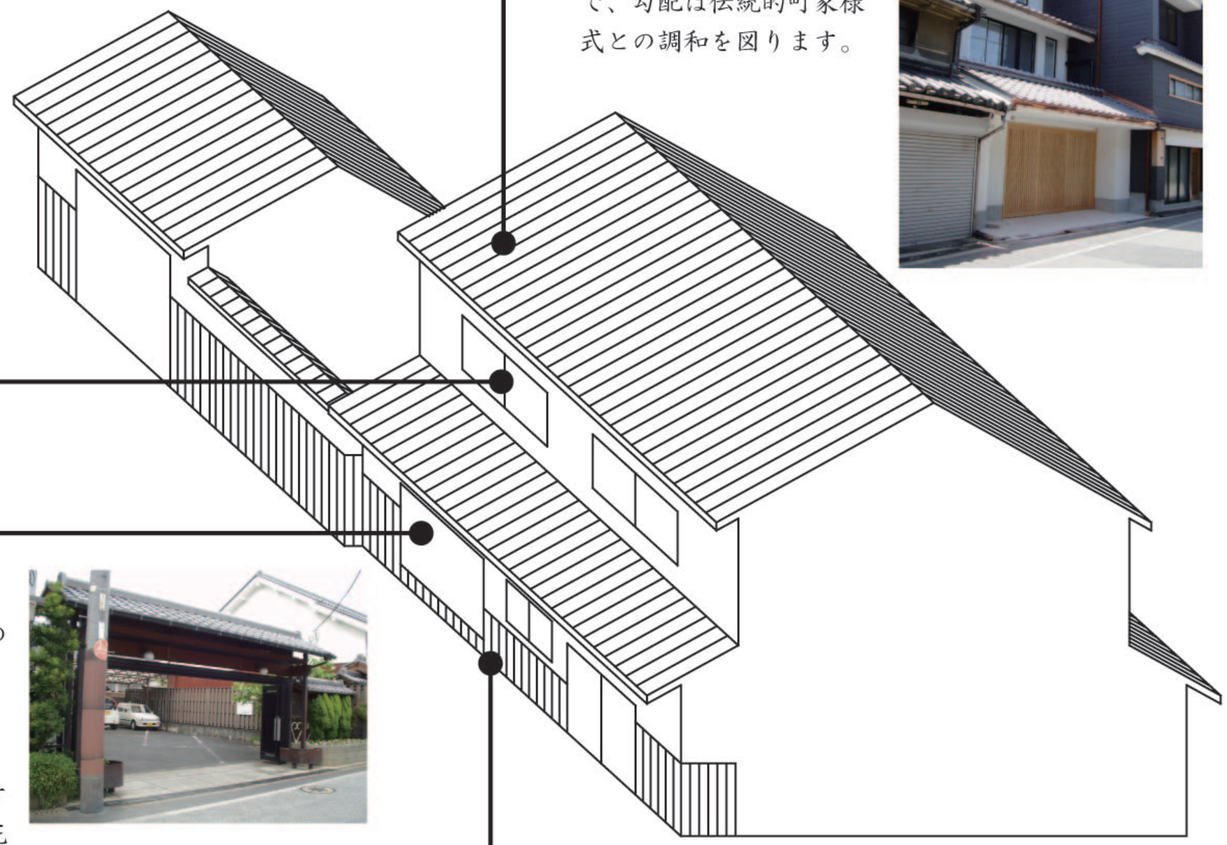
建築物等の新築・修景の心得

壁面

漆喰や類似の仕上げ、板貼り、土塀とするなど、まちなみとの調和を図ります。壁の色については、白や灰、濃茶色及び黒色を基調とします。

開口部

建具は木製や濃茶色・黒色のアルミサッシとし、窓には、できる限り木製の格子をつけるようにします。



建築物の高さ

建築物は、原則として２階建以下とし、軒高、庇の高さをまちなみに揃えます。やむを得ず３階建以上とする場合は、３階以上の部分は道路より後退し、まちなみの連続性を保ちます。

屋根

平入りの傾斜屋根とし、灰・黒色系の日本瓦葺きで、勾配は伝統的町家様式との調和を図ります。

駐車場・ガレージ

和風の塀で修景し、まちなみの連続性を保ちます。

店舗デザイン

店舗の改装はまちなみに調和するものとし、原則として１階の庇以下で行うものとします。

広告物・看板

位置や大きさに配慮するとともに、まちなみと調和するデザインや色彩とします。

建築設備

ダクトや配管、空調屋外機等は道路から見えない位置に設置するよう配慮します。やむを得ず、道路から見えるところに設置する場合は、木製の格子等で建築物との調和を図ります。

建物の位置

壁面の位置は、現在のまちなみとの統一を図ることを原則とします。やむを得ず、後退して建てる場合は、和風の塀を設置し、まちなみの連続性を保ちます。

敷地形状

現在のまちなみを形成している敷地の形状を原則として維持します。

塀・柵

ブロック塀や金属類が露出する柵は避け、まちなみに調和するよう修景します。

～　歴史的景観建築物等の修理・修景　～

外観

各建築物の特性を維持するために、外観は復元を原則とし、修理修景し、町家建築の輪郭を保全します。

屋根及び庇

平入り、灰・黒色系の日本瓦葺き、屋根形状は伝統的様式とし、勾配は4.5～5.5寸とします。

壁面

漆喰や板貼り、土塀など、原則として建築当初の意匠に準ずるものとします。

１階開口部

出入口は木製の格子戸など、建築当初の意匠に準ずるものとします。また、出入口以外は木製の格子窓・出格子を基本とし、アルミサッシ等を用いる場合は、内側に納めるようにします。

２階開口部

虫籠窓や格子窓・出格子とするなど、原則として建築当初の様式に準ずるものとします。建具は木製を基本とし、アルミサッシを用いる場合は濃茶色又は黒色とします。